



小野寺 私は「トーク・ワン」の運営をサポートしながら、活動の拠点としても活用しています。独自活動では、大きく分けて二つの動きがあります。一つは市民の方のまちづくりに対するパブリックマインドの醸成！意識改革です。この施設を活用したトークイ

白石に来ましたが、早い段階で元の印刷屋さん、温麺屋さんなどいろいろな方とお会いでき、それが仕事をする上で、すごく役に立っています。いま、白石では「こじゅうろうキッズランド」などの新たな施設ができています。それらを運営するのは人！その人と人、特に行政や民間企業そして市民の方々をつなぐ接着剤になればと思っています。

佐治 私も小野寺さんと同じように「トーク・ワン」を拠点として活動しています。私は、ここをどれだけ居心地の良い場所にしていくかという点を重点に考えています。これまでのいろいろな方がやって来てくれましたが、いまでは小学生が遊びに来てたりします（笑）。交流スペースは、お茶を飲みにも良いので気軽に使ってもらいやすいですね。

ペントのようなものを外部講師を呼んで開催したり、異業種交流会のイベントなどを開いたりして、学生や農家の方、市外でまちづくりに活動をしている方が気軽に集えるような場所作りをしています。もう一つは、学生と空き家活用のプロジェクトを立ち上げました。まだ具体的に動いている物件はないんですが、出店者を探してそこで開業していただくという計画を展開していきたいです。

プロ 私は、一昨年の12月に市企業立地定住促進課に配属となり、「ト

市長&地域おこし協力隊

新春

トークセッション

@109-one
白石市移住交流サポートセンター



のぞみ プロ望美さん
(大郷町出身)

まじなち 佐治達也さん
(愛知県出身)

おのてらすむら 小野寺康浩さん
(岩手県出身)

たけだしのり 竹田祐博さん
(大阪府出身)

本市では、昨年からの地域協力活動を行いながら定住・定着を図る取り組みである「地域おこし協力隊」制度を、農林業分野・移住交流分野において活用しています。今号では、地域活性化のために協力活動を展開する彼らと山田市長が、現在の活動内容や新たな年における思いなどについて語り合っていました。

昨年は節目の年
本年は転換の年

市長 皆さん、明けましておめでとうござります。いよいよ2019年がスタートしました。本年は、平成から新しい元号に変わる年で、わが国にとって大きな転換の年になると思います。そのような中、私は希望に満ちあふれた気持ちで新年を迎えました。

2018年を振り返ると、本市にとって大きな節目の年となりました。まずは、戊辰戦争から150年という節目です。白石城は、会津藩救済のための会議が行われた場所であり、奥羽越列藩同盟の公議府など重要な機関が置かれたのが白石市でした。

また、60回を迎えた「全日本こけしコンクール」。これは天皇皇后両陛下のご成婚を記念に始まった大会です。そして「農業祭」が第40回。昨年は本当にメモリアルイヤーだったと思っています。さらには、国道4号沿いに整備中の賑わい交流拠点である「しろいしサンパーク」では、6次産業化加工施設「みのりファクトリー」が昨年7月にオープン。8月には、



▲昨年開催した鬼小十郎まつりで白石産ササニシキの新米をPRする竹田さん

ーク・ワン」のオープン準備をしてきました。4月からいきなり始まったというよりは、ステップを踏んでというところはありました。が、始めてみるとこんなにも大変なんだと痛感しました。最初の1・2カ月は、皆さんに迷惑をお掛けしながら手伝っていた。仕事をしていました。その後、地域おこし協力隊が入ってきてくれたので力強く思いました。ようやく周りが見え出し、こういう事がしてみたいということが出てくるようになりました。

市長 ササニシキ復活プロジェクトは5人でスタートしましたが、現在は9人となりました。作付面積も3.5haから7.9haに拡大され、順調に広がりをみせています。竹田さんには、プロジェクトメンバーと首都圏をターゲットにPR活動をしていただいています。自分たちが自信を持って作ったおいしい米を、多くの皆さんが買って食べていただけるといって喜ぶのは、次の生産意欲につながっていくと思いますので、今後もよろしくお願ひします。

竹田 私は前職で家具屋に勤めながら、その傍らで、陶芸家をしていました。家具屋では営業、店づくり、広告デザインなど、さまざまなことを経験してきました。白石産ササニシキ復活プロジェクトでは、前職の経験を生かして、ブランド化の推進のため役立てることができればと思います。それから「おもしろい市場に行けばこれがある」「キッズランドで遊んだら、市場で何か食べよう」というような魅力あふれる施設にしたいですね。

子どもの屋内遊び場「こじゅうろうキッズランド」が続いてオープンしました。加えて、白石市移住交流サポートセンター「109-one（トーク・ワン）」も昨年5月にオープンし、本市の新たな魅力の発信、そして移住交流をさらに加速するという上で、大きな事業が動き出した節目の年となりました。

地域おこし協力隊として
昨年の活動を振り返って

竹田 昨年4月に白石市に移住し、市が新たに整備する農産物等販売施設「おもしろい市場」のオープンに向けた支援、過去に日本一を獲得した白石産ササニシキの復活を目指しているプロジェクトの広報活動や販路拡大のため動いています。知り合いがいない中、

地域おこし協力隊
竹田祐博さん

